

公益財団法人日本スポーツ協会
公認アスレティックトレーナー

専門科目カリキュラムの改定について



公益財団法人

日本スポーツ協会

前段(課題)

●AT資格養成に関わる大きな課題

◆共通科目

- 公認スポーツ指導者制度の改定施行(2019年4月1日)に伴う対応が必要

◆AT専門科目

- JSPO-ATの資格制度の背景変化
- スポーツ現場のニーズ拡大、求められる役割変化
- 役割、コンピテンシーの明確化の必要性
- スポーツ現場での誤認識、保険
- コンディショニング技術の高度化、国内外専門職の教育高度化、関連資格の多様化

◆AT事業

- 前回のテキスト改定から10数年が経過

改定のポイント

- 公認スポーツ指導者制度に基づく「種類及び役割」
- コンピテンシーに基づく3P(AP,CP,DP)の制定
- 専門科目カリキュラム、シラバス
- カリキュラムマップ
- テキスト、副教材
- 養成講習会形態
- 検定試験実施形態
- カリキュラム移行に伴う対応 -資格取得課程、検定試験-

公認スポーツ指導者制度に基づく「種類及び役割」

●公認スポーツ指導者制度に基づく「種類及び役割」を下記の通り改定します

<現>

4. 公認スポーツ指導者の種類及び役割は、次のとおりとする。

(3)メディカル・コンディショニング資格

ウ. アスレティックトレーナー

スポーツドクターをはじめコーチ等との緊密な協力のもとに、プレーヤーの安全・健康管理、スポーツ外傷・障害の予防、救急対応、アスレティックリハビリテーション及び体カトレーニング、コンディショニング等にあたる者

<新>

ウ. アスレティックトレーナー

1)スポーツ活動中の外傷・障害予防、2)コンディショニングやリコンディショニング、3)安全と健康管理、および4)医療資格者へ引き継ぐまでの救急対応という4つの役割に関する知識と実践する能力を活用し、スポーツをする人の安全と安心を確保したうえで、パフォーマンスの回復や向上を支援する者

コンピテンシーに基づく3P(AP,CP,DP)の制定

●公認アスレティックトレーナー養成講習会(特に専門科目)における3Pを制定します

<現> 専門科目カリキュラムにおける3Pの明記はなし

ただし、公認スポーツ指導者制度に基づく3Pの明記はあり。

<新>

AP スポーツ関係機関・団体等と連携して、スポーツをする人の安全と安心を確保し、パフォーマンスの回復や向上を支援する意欲がある者を受け入れる。

CP

1. ディプロマポリシーを達成するために、共通科目と専門科目の2つのカリキュラムによる体系的な学習を促す。
2. スポーツの意義と価値を理解し、幅広いスポーツ医・科学等の知識を身につけるための共通科目を設置する。
3. スポーツ活動中の外傷・障害予防、救急対応、コンディショニングやリコンディショニング、および安全・健康管理等に関する専門的な知識と技術を身につけるため、講義と実習で構成される専門科目を設置する。
4. 本カリキュラムでは、180時間を越えるスポーツ現場での実習を通じて、共通科目および専門科目で身につけた知識と技能を実践に発展させるように促す。

コンピテンシーに基づく3P(AP,CP,DP)の制定

DP 公認アスレティックトレーナーの教育カリキュラムを修了し、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者共通の質・能力に加え、次の質・能力を身につけた者に公認アスレティックトレーナーの資格を与える。もって、公認アスレティックトレーナーの役割による社会貢献を期待できる人材を養成する。

1. 知識・技能

- スポーツ医・科学の知識を有し、スポーツ現場においてスポーツをする人の安全と安心を確保し、パフォーマンスの回復や向上を支援するための技術を有する者。

2. 思考・態度

- 自らの役割を遂行するために、常に学び続けることができる者。
- 科学的根拠に基づいたスポーツ環境の構築に寄与できる者。
- 多様な人材と、有機的に連携できる者。

AP: アドミッションポリシー（資格取得希望者の受け入れに関する方針）受け入れる資格取得希望者に求める学習成果を示すもの。

CP:カリキュラムポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）教育課程（基礎教育と専門教育との連携、カリキュラムの体系化など）教育内容・方法＝科目（シラバス、教授・学習法）評価方法（成績基準や評価方法の明示）

DP:ディプロマポリシー（認定に関する方針）

「資質・能力の中身:知識、技能、態度」/「資格認定の基準・方法」/「社会からの期待」

専門科目カリキュラム、シラバス

●専門科目カリキュラムの時間数に変更はありませんが、内容が変更となります

現行カリキュラム内容	時間	新カリキュラム内容	時間
ATの役割	30	JSPO-ATの役割	30
スポーツ科学	120	安全・健康管理とスポーツ外傷・障害の予防	90
運動器の機能と解剖	60	コンディショニング	90
スポーツ外傷・障害の基礎知識	60	リコンディショニング	90
健康管理とスポーツ医学	30	救急対応（+各種BLS）	60
検査・測定と評価	60	検査・測定と評価	30
予防とコンディショニング	90	人体の解剖と機能	60
アスレティックリハビリテーション	90	スポーツ科学概論	90
救急処置（+日赤救急法救急員）	30	スポーツ医学概論	60
スポーツと栄養	30		
カリキュラム合計	600	カリキュラム合計	600
現場実習	180	現場実習	180

※シラバスについては別添。

カリキュラムマップ(履修の目安)

<現> 講習科目1から10の順に学ぶことが望ましい。

現行カリキュラム	
1	ATの役割
2	スポーツ科学
3	運動器の機能と解剖
4	スポーツ外傷・障害の基礎知識
5	健康管理とスポーツ医学
6	検査・測定と評価
7	予防とコンディショニング
8	アスレティックリハビリテーション
9	救急処置
10	スポーツと栄養
	現場実習

<新> 共通科目課程と合わせ、専門基礎科目から専門科目の順に学ぶことが望ましい。

新カリキュラム内容	
●	JSPO-ATの役割
●	安全・健康管理とスポーツ外傷・障害の予防
●	コンディショニング
●	リコンディショニング
●	救急対応
●	検査・測定と評価
○	人体の解剖と機能
○	スポーツ科学概論
○	スポーツ医学概論
	現場実習

●:ATのコンピテンシーに直結する科目(専門科目)

○:ATのコンピテンシーに関係する必要な科目(専門基礎科目)

テキスト、副教材

<現>テキスト1～9巻、ワークブック7種、各種参考書籍

<新>テキスト1～6巻(冊子・デジタル)を新たに作成、各種参考資料(各種書籍・ガイドラインなど)や動画教材、共通科目リファレンスブックを活用します

カリキュラム内容	テキスト・教材
JSPO-ATの役割	共通+ 専門 +各種参考資料
安全・健康管理とスポーツ外傷・障害の予防	共通+ 専門 +各種参考資料
コンディショニング	共通+ 専門 +各種参考資料
リコンディショニング	共通+ 専門 +各種参考資料
救急対応	共通+ 専門 +各種参考資料+外部BLS
検査・測定と評価	共通+ 専門 +各種参考資料
人体の解剖と機能	共通+各種参考書籍・資料
スポーツ科学概論	共通+各種参考書籍・資料
スポーツ医学概論	共通+各種参考書籍・資料

※各種参考資料はテキスト記載のURLなどから得られる情報を含む

新たな養成講習会形態

<現> 1～5期、集合講習会

受講有効期間: 申込年度から5年度以内に理論試験に合格すること。

実技試験は受講有効期限内に限らず2回受験することが可能

<新> 1～3期、集合講習会

●1期 オンライン形態、講義系、1日7～8h、4日程度を複数週(2-2日)に分けて実施。間の学習として「オンデマンド学習」を実施する

●知識確認テスト

→実技を実施するにあたり、最低限の知識を有しているかを確認。

知識確認テストに合格しない場合は、2期講習会に参加できない

●2期 集合形態、実技系1日7～8h、5～6日程度

●3期 集合形態、実技系1日7～8h、4～5日程度

なお、実技確認テストを3期講習会時に実施する

●受講有効期間: 受講開始年度を含め共通科目検定試験及び

専門科目面談合格まで5年間

新たな検定試験実施形態

<現>

理論試験

マークシート 5肢
集合 全国6会場
養成・適コ共通



実技試験

集合 全国2会場
前期,後期
養成・適コ共通



<新>

実技確認テスト

各教育機関
養成講習会内



理論試験

CBT※方式
年2回 各回約1か月
養成・適コ共通



インタビュー(面談)

理論試験合格者を
対象にしたインタビュー
養成・適コ共通



※CBT:Computer Based Testing

カリキュラム移行に伴う対応 -資格取得課程-

<養成講習会>

現カリキュラム		新カリキュラム
1期未修了	→	1期集合講習会から受講する
1期修了、2期未修了	→	
1・2期修了、3期未修了	→	知識確認テストの修了を必須とし、 2期から受講可能とする (1期講習会は免除することも可能)
1～3期修了、4期未修了	→	
1～4期修了、5期未修了	→	

- ・カリキュラム移行に伴う、受講料の差額返金を行わない(追加徴収もなし)
- ・新カリキュラム講習会受講に必要なテキストは無償で提供する。
- ・受講有効期間の延長はしない。
- ・検定試験は「新カリキュラムにおける試験制度」に則って受験する。

※該当する受講者には当協会から直接通知をいたします。

カリキュラム移行に伴う対応 -検定試験-

年度	養成内容	実施する試験
2022	現カリ(3~5期) 新カリ1期	現カリ(理論集合+実技)
2023	新カリ	現カリ(理論集合+実技)、新試験(理論CBT、面談)
2024	↓	現カリ(理論集合+実技)、新試験(理論CBT、面談)
2025		現カリ(理論集合+実技)、新試験(理論CBT、面談)
2026		現カリ(実技)、新試験(理論CBT、面談)
2027		現カリ(実技)、新試験(理論CBT、面談)
⋮		⋮

- ・2023年度以降は「学習したカリキュラム内容による試験制度」に則って受験する。
- ・なお、2025年度以降、養成講習会参加者を対象にした現カリキュラムの理論試験は実施しない(有効期限内の受講者がいなくなるため)。
- ・実技試験の最終年度については未定

カリキュラム移行に伴う対応-検定試験受験資格-

<養成>

(1)理論試験

当協会が開催する1期～5期講習会の全日程を受講した者。受験有効期限は受講開始年度から5カ年度とする。

(2)実技試験

理論試験に合格し「公認アスレティックトレーナー理論試験(または客観式試験)合格証」を交付された者。実技試験は有効期限を設けないが、受験機会は2回までとする。

なお、受講有効期間内に共通科目検定試験及び専門科目理論試験に合格しない場合は、その時点で受講者としての権利をすべて喪失する。



**実技試験受験資格がありながら、実技試験最終年度までに受験をしなかった場合、
実技試験最終年度以降は、受験資格を消失する。**



取得した単位、合格証などの効力は一切無効となります。以後検定試験の受験を希望する場合には再度養成講習会に参加すること。

※該当する受講者には当協会から直接通知をいたします。

公益財団法人日本スポーツ協会
公認アスレティックトレーナー

専門科目カリキュラムの改定 (参考資料編)



公益財団法人

日本スポーツ協会

AT専門科目カリキュラムの改定について

●AT教育制度検討委員会(2017年~)による5つのTOPIC

- コンピテンシーの再考
- AP、CP、DPの制定
- 3Pを考慮したカリキュラム検討と教材、教育資源の活用方法の検討(進行中)
- 3Pを基盤とした教育の質保証のための体制確保(進行中)
- DPを考慮した資格認定試験のあり方への提言(進行中)

※日本スポーツ協会アスレティックトレーナー一部会の下に「教育制度検討委員会」「試験委員会」を設け、カリキュラム改定について協議を進めて参りました。教育制度検討委員会では上記5つのTOPICについて議論し、それぞれ取りまとめてきました。

AT専門科目カリキュラムの改定について

●コンピテンシーの再考(TOPIC1)

JSPO-AT は、1)スポーツ活動中の外傷・障害予防、2)コンディショニングやリコンディショニング、3)安全と健康管理、および4)医療資格者へ引き継ぐまでの救急対応という4つの役割に関する知識と実践する能力を活用し、スポーツをする人の安全と安心を確保したうえで、パフォーマンスの回復や向上を支援する指導者です。

その指導対象は、日本代表やプロスポーツ選手などとして活動する競技者のみならず、地域スポーツクラブ、学校・大学等の運動部活動、民間スポーツ施設、地域のスポーツセンターなどでスポーツ活動をするすべての人々です。

●AP、CP、DPの制定(TOPIC2)

資料中に記載

AT専門科目カリキュラムの改定について（TOPIC3）

※TOPIC3については、コンセプトや考え方が決定しております。

詳細については引き続き協議・準備を取り進めて参ります。

●3Pを考慮したカリキュラム検討と教材、教育資源の活用方法の検討

1) カリキュラム内容

- 公認アスレティックトレーナーの教育カリキュラムは日本スポーツ協会公認スポーツ指導者の共通科目と専門科目からなる。
- 公認アスレティックトレーナーの専門科目カリキュラムは、コンピテンシーに沿った専門的な知識と実践に関わる内容と、それらの基盤となるスポーツ医科学の基礎知識に関わる内容から構成される。
- 養成講習会における集合講習では、日本スポーツ協会公認ATの役割の概説に加えて、実践能力が必要とされる内容を中心に実施する。
- 旧カリキュラムにおける検査・測定と評価の実践は、必要とされるカリキュラムに含むものとし、その分の教育時間の確保を図る。

AT専門科目カリキュラムの改定について (TOPIC3)

●3Pを考慮したカリキュラム検討と教材、教育資源の活用方法の検討

2) 専門科目テキスト

- 公益財団法人が出版するテキストのため「社会全体の機能向上に繋がるもの、さらには社会の規模拡大に寄与する」内容であり「正しく、公平でありながら、信頼のある」内容とする
- 「リファレンス」形式でテキストを作成
- JSPO-ATとしての業務に必要な標準的・普遍的内容を解説。実践的な内容は、JSPO-ATが実施できる技能に絞って記載

AT専門科目カリキュラムの改定について (TOPIC3)

●3Pを考慮したカリキュラム検討と教材、教育資源の活用方法の検討

3)テキスト

➤ 知っておくべき「知識」とJSPO-ATが「できること」を意識・区別

医療資格者が行うべき行為(例:マッサージ、特定診断検査法)は、JSPO-ATとして業務を遂行する上で必要とされる情報として整理記載し、その場合でもJSPO-ATが実施できる範囲をわかるように記載

➤ 「JSPO-AT(日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー)」という言葉と「AT(概念としてのアスレティックトレーナー)」という言葉を意識して使い分け

➤ 執筆者の臨床経験によって治療成果が変化するような手技、または近年注目されているものの関連主要学会などでコンセンサスを得られていない概念・治療法は、本テキストへの記載は避ける